

## 第15回 アフガニスタンの女性支援に関する懇談会 議事要旨

(開催日時等)

1 日時	平成24年7月9日(月) 10:30~11:20	
2 場所	日本学会議6階会議室	
3 出席者		
会長	原 ひろ子	城西国際大学大学院客員教授
委員	青山 温子	名古屋大学大学院教授
	池上 清子	日本大学大学院教授、前国連人口基金東京事務所長
	岩男 壽美子	慶応義塾大学名誉教授、武蔵工業大学名誉教授
	内海 成治	京都女子大学教授
	喜多 悦子	日本赤十字九州国際看護大学学長
	田中 由美子	国際協力機構国際協力専門員
	中道 仁美	愛媛大学農学部准教授
	橋本 ヒロ子	十文字学園女子大学教授
	目黒 依子	上智大学名誉教授
報告者	リア・ジャワド	正義のための連帯財団上級ディレクター
	マラライ・シンワリ	アフガニスタン統合能力開発機構ディレクター
外務省	嘉治 美佐子	外務省中東アフリカ局審議官
	上田 龍幸	外務省中東第二課課長補佐
国際協力機構	西野 恭子	ジェンダー平等・貧困削減推進室長
	岩瀬 誠	ジェンダー平等・貧困削減推進室主任調査役
	新井 慶子	南アジア部南アジア第2課特別嘱託
内閣府	岡島 敦子	男女共同参画局長
	金子 浩之	男女共同参画局男女共同参画推進官

(議事次第)

- 1 開会
- 2 アフガニスタン女性支援について
- 3 閉会

(配布資料)

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 アフガニスタン報告者略歴
- 資料3-1 平成14年懇談会報告書「アフガニスタンの女性支援について」概要
- 資料3-2 平成14年懇談会報告書「アフガニスタンの女性支援について」一覧表
- 資料3-3 アフガニスタンの女性支援について
- 資料4 JICAのアフガニスタンにおける女性支援の実績について
- 資料5 アフガニスタンの女性支援に関する懇談会における議事要旨の公開等について
- 参考資料1 アフガニスタンに関する東京会合

(議事概要)

■これまでのアフガニスタンの女性支援について

- 内閣府から、7月8日に開催された「アフガニスタンに関する東京会合」で採択された「東京宣言」及び「附属文書」の概要について報告があった。また、平成14年から10年間に実施されたアフガニスタン女性支援の実績及びアフガニスタンの女性をめぐる状況の改善について、説明があった。
- JICA から、ジェンダーは重要な開発課題そのものであると同時にあらゆる分野で認識すべき重要な視点としてとらえて支援を実施し、アフガニスタンにおいても、女性の地位向上及びエンパワーメントに取り組み、女性課題省を直接支援するとともに、各分野における協力においてもジェンダーの視点を取り込んで展開された活動例が、本懇談会提言の6分野に沿って報告があった。
- アフガニスタン人の女性人権活動家のジャワド氏から、アフガニスタンの女性の権利に関する条約の批准、憲法の制定等法律の整備は進んだが、女性に対する暴力やDVは依然として深刻であり、人権法や安保理決議1325号の完全履行に向けて女性が政府や高等和平評議会に参画し対話を構築する必要性が指摘された。また、日本の支援によりアフガニスタン女性課題省職員の能力が向上したことは大きな成果であるが、地方や農村部までは支援が届いてない現状について説明があった。
- アフガニスタン人の女性人権活動家のシンワリ氏から、アフガニスタンにおける女性の状況について、女性が社会のさまざまな活動に少しずつ参加できるようになったが、他方、女性は二流市民として位置づけられており司法手続きではさまざまな権利があることが認められていないこと、学校建設は男子校が7つならば女子校は3校であったり、女子教員が不足したりして、すべての女子が学校に行ける状況や設備ではないこと、保健・医療は以前よりは改善されているものの多くの課題が残されているとの報告があった。

■ 報告に対する質疑応答があった。

- アフガニスタンにとって有益であった日本の女性支援は何か。
- 日本によるアフガニスタン女性課題省職員の能力向上への支援は、非常に高く評価される。医療分野でも日本の支援で改善が見られているが、すべての女性が医療提供を受けられる状況ではない。アフガニスタンでは治安と汚職が大きな問題となっており、農村部の女性の自立の妨げになるとともに、必要な支援が女性に届いていない。
- 女性課題省、市民社会、NGOによる女性支援の活動プログラムにより、一般のアフガニスタン女性の生活がどのように改善されたのか。
- 日本を始めとする支援により、課題はあるが女性の地位及び生活は改善した。改善の一つとして、女性が自由にさまざまな社会活動に参加できるようになった。日本で皆さんと意見交換した成果を、帰国したのち、女性の状況を改善するため生かしたい。
- 農村部ではまだ女性の就学率が悪いが、正規の学校ではなく分校のような形で、女性が子どもたちを見るというような学校が必要なのではないか。
- 特に農村部では制服を着るだけでも反対するなど女子を学校に行かせない。また、女子教員が不足しており、教員の育成が必要。地域では課題が多いが、現状では地域ごとの活動がほとんどできていない。

※ 本議事要旨は、事務局の責任において作成したものであり、今後修正となる可能性があります。